

特集 センター試験が無くなるの？

「勉強＝暗記」だけではない。大学入試に限らず、将来社会で必要となるのは、「身につけた知識をいかに活用できるか」。必要なことを覚える作業は確かに大切だが、「なぜそうなるのか？」を常に考えながら、自分が身につけた知識が本当に使えるレベルにあるのかどうかを、日々の授業や考査・模試等で確認しよう。

■2020年から新テスト

Q センター試験が無くなるの？
A 国は、現在の大学入試センター試験を廃止し、2020年度から、「大学入学希望者学力評価テスト」(仮称)を始める考えだ。

Q 何が変わるの？
A 大学志願者の学力を測る目的は変わらないが、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するために、出題内容を変えようとしている。用語や解き方を覚えているかではなく、高校で学んだ知識や技術を使って考える力を確かめる試験にする。

Q どんな問題になるの？
A 新しいテストでは、いくつかの

教科や科目を組み合わせた試験も実施する。例えば、英語と理科を組み合わせた出題などが考えられている。さらに、教科の枠を超えて、課題に取り組む力を見る出題もしたいという。記述式の問題も入れる。

■年に何回も受けられる？

Q イメージがわきにくいね。
A 新しいテストをどんな問題にするのか、国が専門家を集めた会議をつくって、検討しているところだ。内容以外に、実施方法も大きく変わる。年に何回か受けられるようになる。

Q 何月に実施するの？
A 高校への影響も大きいので、慎重に検討している。挑戦の機会を多くする狙いもあるが、高校生が「受け身」で入試に臨むのではなく、いつテストを受けるかも自分で判断してほしい、という考えもあるそうだ。

Q 今の高校生には関係ない？
A 新テストを受けるのは、今の中

学1年生からだ。ただ、改革は、暗記中心の勉強だけをしてきた人は、これからの時代には通用しないという危機感が背景にあることは知っておきたい。「思考力・判断力・表現力」は今の高校生にとっても重要だ。勉強は、知識をもとに、考える力や課題に取り組む力をつけるもの、という意識を持つとよい。

Q 各大学の試験も変わるの？
A 国は、各大学の選抜方法の改革

を求めていく考えだ。今年度から順次、大学入試に関する規定の変更などを始めるという。知識や考える力に加え、自分から課題を見つけて解決する力や、さまざまな人と協力して学ぶ力を重視してほしいという。そのために、高校時代の大会や表彰の実績、志望理由書、小論文、面接、集団討論などの方法を組み合わせた試験をするよう各大学に求めている。

●全国共通の試験

大学入試センター試験

- 6教科31科目の試験を実施
- マークシートを使った選択式の試験
- 年1回実施
- 1点刻みの結果を各大学に提供

2020年度～ 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

- 教科の試験に加え、複数の教科・科目を組み合わせた出題をする試験や、教科を超えた総合的な出題をする試験を実施
- 選択式に加え、記述式を導入。コンピュータ上で答える形式を前提に検討
- 年に何回か実施し、選んで受けられるようにする
- 結果は、点数ではなく、レベル別で各大学に提供

●各大学の選抜方法(2015年度から順次改革)

- 各大学は、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を明確にして、教育内容や育てたい学生像にあった入試をするよう求められる
- 知識・技術や思考力・判断力・表現力に加え、主体性・多様性・協働性を重視した選抜に
- 「大学入学希望者学力評価テスト」の結果に加え、大学ごとに小論文、プレゼンテーション、集団討論、面接、推薦書、調査書、資格試験などを取り入れて選抜する
- 一般入試、推薦入試、AO入試の区分を見直す



新しい中央高校へ
生徒会長 末吉 桃佳
新生徒会が発足し、教員がたがりました。これまでの生徒会の取組みとしては、新旧計23名の役員で文化祭の運営を行い、同時に、旧役員から新役員へとバトンタッチされました。

新生徒会発足に際しては、例年12名の役員で構成されていましたが、本年度は学校運営に意欲的に関わろうという生徒が集まり、14名で構成されています。

今後の中央高校生徒会の活動としては、学校行事の運営はもちろん、CBP活動の一貫として、CBP間での文化交流を計画しています。生徒総会で意見があったように、CBP活動が生徒会役員だけでなく、全校生徒が何らかの形で関わることを目指しています。

新生徒会 発足

生徒会	2年5組	末吉 桃佳
生徒会副会長	1年8組	鶴田 萌
生活部長	2年6組	永井 修太
生活次長	1年7組	末吉 琴己
体育部長	2年6組	西園あやね
体育次長	1年6組	東 伊織
文化部長	1年5組	立石 夕理
文化次長	2年2組	尾崎 美月



文化次長 1年6組 清田 柚夏
文化次長 1年6組 上野 来未
会計書記次長 1年5組 加治屋みさと
美化部長 1年2組 山田 夏凜
美化次長 1年2組 芝 遼香

中央高校を今まで例がない程盛り上げていきたいと思います。

第69回国民体育大会に、鹿兒島の代表として出場した向井遼郎さんに話を聞いた。彼は自分の技術向上の為に、昼休みや放課後に自分自身の課題に向けて練習し、練習後はチームメイトと走っているらしい。また、チームメイト一人一人がどんなプレーヤーかを把握し、その選手の活かし方や長所・短所をノートにまとめ、チームの向上の為に努力している。

どんな選手になりたいか尋ねたところ、「チームを背中で引っ張ることが出来る選手。岡崎慎司選手のように泥臭くゴールに向かい、大迫勇也選手のように

バガツにおじゃま ◆サッカー部

☆きらり中央星☆

鋭い線質、一筆入魂
6月27日に東京で行われた、第16回高校生国際美術展の懇親会および表彰式に出席させていただきました。海外15ヶ国の受賞者、国内の美術、書道の受賞者が出席し、世界各地の芸術の特色を感じたり、多くのすばらしい作品を見ることができました。

題に向けて練習し、練習後はチームメイトと走っているらしい。また、チームメイト一人一人がどんなプレーヤーかを把握し、その選手の活かし方や長所・短所をノートにまとめ、チームの向上の為に努力している。

今回、私が臨書した「雁塔聖教序」という古典が書道部に入部してからずっと書いてきた古典でも思い入れがあります。なかなか古典の特徴を表現することができず、悩んだ時もありましたが、弾力がありつつも鋭い線質を表現することを目指し、作品制作に取り組んでみました。最後にこのような賞をいただくことができて本当に手をうまく使える選手になりたい」と語ってくれた。

最後に、今後の目標について尋ねてみた。「まず1番近い冬の選手権でベスト4に入ることを。結果を残すことで、先輩方、顧問の先生方、支えてくれるチームメイトに恩返ししたいと思います。」

努力を怠らず、周囲への感謝や気遣いを忘れない彼の活躍に今後とも期待したい。(協田 寧々)

大山巖は1842年、加治原町柿本寺通に生まれ、幼名は岩次郎、通称は弥助。西郷隆盛の従弟にあたる。20歳頃、同藩出身の有馬新七等に影響され過激派に属したが、寺田屋事件では公武合体派によって鎮圧され帰国謹慎処分を命ぜられたり、英戦争では「スイカ売り決死隊」に加わりイギリスの旗艦ユーリアスに乗り込んだりした。また、1884年には各国視察のため渡欧、帰国後陸軍の近代化に努め、初代の陸軍大臣となった。日清戦争では第2軍司令官として出征、日露戦争には満州軍総司令官として出征し、その活躍によって「元帥公爵」という最高の地位を与えられた。

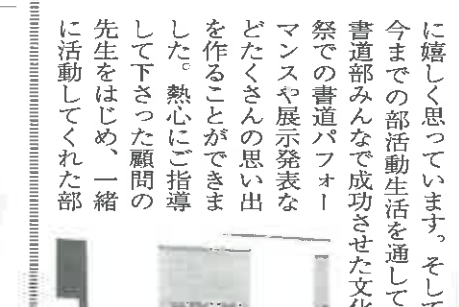
権力を嫌った 近代陸軍の実力者 大山 巖

「スイカ売り決死隊」とは？
「スイカ売り決死隊」とは薩英戦争の時にイギリスの軍艦を奪ってしまおうと、スイカ売りに変装させた80人余りの武士たちを送ってイギリス兵を油断させ船に斬り込もうとしたものらしい。結局、兵の警戒心をゆるめることができず計画は失敗に終わったのだ。持っていたのがスイカではなく爆弾だったとすれば恐ろしい。歴史は変わっていたのかも知れない。

最高の地位を得ながら、政治的な野心を持たなかった彼の誕生は本校の目の前である。1916年、12月10日永眠。国葬が行われた。

偉人探査船
活動のみんなや友達に本当に感謝しています。

活動のみんなや友達に本当に感謝しています。



学校の向かい側にある大山巖誕生の碑

第24回 鹿児島中央高校・鹿児島玉龍高校スポーツ交歓会

「中玉戦」6連覇ならず!

リベンジの誓い

女子バレーボール

オープニングで全校応援というプレッシャーの中で奮闘していたが、セットカウント0-2で惜敗。東主将は「温かい声援ありがとうございました。次は1試合でも多く勝って、目標達成できるように、自分たちの今できるプレーを精一杯していきいす」と笑顔で語った。



(水溜 友希)

男子バレーボール

セットカウント0-2で惜敗。「相手が、フェイントもブロックのワンタッチも拾い上げて、最後まで「繋ぐ」ことができていた」と反省。「日々の練習からチーム力を上げ、「繋ぐ」ことを意識していきたい」と選手たちは語った。

(慶田 偉)

男子バドミントン

2勝3敗で惜敗。選手たちは、「負けただけで楽しく、試合も応援もできてよかった」と語った。

西原口主将は「県制覇という目標を持ち、頑張りたいたい」と力強く語った。



卓球

3-4で惜敗。後一歩のところまで勝利を逃した。徳留主将は「ミスが多かったが、最後まで諦めない姿勢や闘志があった」と手応えを感じていた。県4強入りを目指す」と飛躍を誓っていた。

(畑添 真一)

①中玉戦結果一覧	⑨テニス
②男子バレーボール	⑩ソフトテニス
③女子バレーボール	⑪サッカー
④男子バスケットボール	⑫野球
⑤女子バスケットボール	⑬弓道
⑥男子バドミントン	⑭剣道
⑦女子バドミントン	⑮中央高校
⑧卓球	⑯玉龍高校
	⑰中央高校
	⑱玉龍高校
	⑲中央高校
	⑳玉龍高校
	㉑中央高校
	㉒玉龍高校

(校名は各種目の勝利校です)



ソフトテニス

白熱した試合展開であったが、セットカウント3-4で惜敗。下村主将は「自分のプレーをして勝利したと思っていたが、思うようなプレーができず負けてしまった。実力不足を痛感した」と唇を噛んだ。



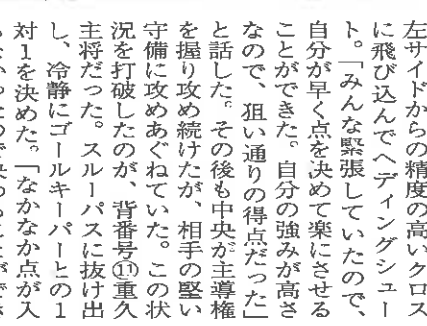
ハイライト

サッカー

今年から鴨池補助グラウンドで実施。全面芝のピッチに生まれ変わった。開始6分、背番号10伊藤が左サイドからの精度の高いクロスに飛び込んでヘディングシュート。「みんな緊張していたので、自分が早く点を決めて楽にさせることができた。自分の強みが高さなので、狙い通りの得点だった」と話した。その後も中央が主導権を握り攻め続けたが、相手の堅い守備に攻めあぐねていた。この状況を打破したのが、背番号11重久主将だった。スルーパスに抜け出し、冷静にゴールキーパーとの1対1を決めた。「なかなか点が入らなかったで決めることができ

たとても安心した。さらにチームを勢いに乗せることもできた。ゴールキーパーとの1対1の時点でシュートを決める自信があった」と語った。熱い気持ちで2-0という結果に結びついた。

(永田 航太)



女子バドミントン

試合会場の県立体育館には、ピーンと張りつめたような雰囲気。コートに仕掛けていた。また、相手の攻撃にひるむことなく、チャンスの時には前に出て、積極的な攻撃を繰り返していた。コート脇で試合を見守る中央生も、プレーで惜敗、「意地でも勝ちたかった。野球で勝てば、中玉戦を制することが出来ただけに残念」と選手たちは悔しさににじむ表情を見せた。

両校の全校応援に湧く、中玉戦の最終戦だった。初回に満塁ホームランを打たれ先制を許し劣勢の展開。2点差までに追い上げたところで、反撃もここまで。5-7で惜敗、「意地でも勝ちたかった。野球で勝てば、中玉戦を制することが出来ただけに残念」と選手たちは悔しさににじむ表情を見せた。

両校の全校応援に湧く、中玉戦の最終戦だった。初回に満塁ホームランを打たれ先制を許し劣勢の展開。2点差までに追い上げたところで、反撃もここまで。5-7で惜敗、「意地でも勝ちたかった。野球で勝てば、中玉戦を制することが出来ただけに残念」と選手たちは悔しさににじむ表情を見せた。

両校の全校応援に湧く、中玉戦の最終戦だった。初回に満塁ホームランを打たれ先制を許し劣勢の展開。2点差までに追い上げたところで、反撃もここまで。5-7で惜敗、「意地でも勝ちたかった。野球で勝てば、中玉戦を制することが出来ただけに残念」と選手たちは悔しさににじむ表情を見せた。

両校の全校応援に湧く、中玉戦の最終戦だった。初回に満塁ホームランを打たれ先制を許し劣勢の展開。2点差までに追い上げたところで、反撃もここまで。5-7で惜敗、「意地でも勝ちたかった。野球で勝てば、中玉戦を制することが出来ただけに残念」と選手たちは悔しさににじむ表情を見せた。

(田中 元貴)

剣道

激闘を6-5で勝利。試合後、下竹原主将は「応援も含め、チームが一体となった」と語った。顧問の西晴乃先生は「チームの一体感が出てきた。勝つべきところで、しっかり勝てるように指導した」と抱負を語った。

チーム一人一人が声を出し、礼儀作法も素晴らしいかった。



(中玉利 智ひろ)

テニス

試合のルールはシングルス3本、ダブルス2本の5本でセットマッチ。男子は3年生4人、2年生3人のメンバーであった。最初にシングルス田原が6-0で圧勝。試合時間は約15分と本当に高速で余裕の笑顔。次もシングルス吉井が格の差を見せつけ、6-0で圧勝。ダブルス神屋・堀之内組が、6-2で勝利。次の水留・肥後組が、苦戦したが、最後の最後まで粘り、6-4で勝利。男子はセットカウント5-0で完勝。女子の試合は、男子よりも圧倒的な差を見せつけ、セットカウント5-0のストレート勝ちで圧倒した。

(堀之内 彬人)

男子バスケットボール

最初のジャンプボールは玉龍であったが、第1Q終了の時点で21-2でリード。第2Qからは、3年生全員得点しようとする積極的な回していた。3年生全員で楽しんでいた。結果は、67-46で勝利。試合後、川原主将は「昨年、一昨年と先輩方の中玉戦を見てきて僕らの代も盛り上がりたと思ってた。時間はあつという間に流れていった。普段はあまり試合に出られない3年生、怪我をした3年生、バスケット部を辞めてしまったけど、それでも2階で応援してくれていた3年生、必死に声を出してくれた先輩たち、全員が力になってくれて最高の中玉戦になった」と語った。

(藤田 理子)

女子バスケットボール

体育館競技の終盤に行われた。試合前、川路まりあ主将は「中央

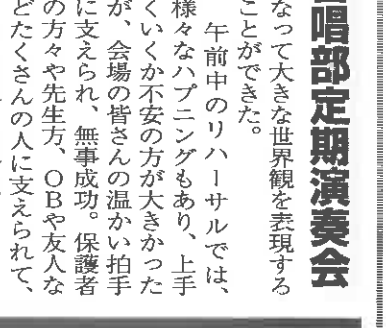
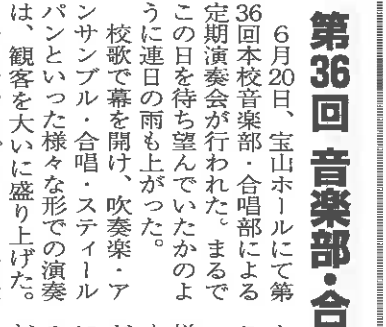
第53回 文化祭

鹿中央の文化を繋げ!

6月13日、第53回文化祭が行われた。各クラスや部活動、個人によるステージ発表、展示など今まで頑張ってきた成果を披露。展示部門においては、放送部による「あなたにとって、青春とは?」、化学部写真班の中玉戦スライドショー、華道部の生け花の展示、他にも各クラスごとに作り上げた映像や音楽選考者等による創作などが展示された。

今年のテーマである「繋ぐ Roots and Future」に相当する、本当に盛りだくさんの充実したものであった。

坂口未歩・舞田紗也加



第36回 音楽部・合唱部定期演奏会

6月20日、宝山ホールにて第36回本校音楽部・合唱部による定期演奏会が行われた。まるでこの日を待ち望んでいたかのように連日の雨も上がった。校歌で幕を開け、吹奏楽・アンサンブル・合唱・ステイブルパンといった様々な形の演奏は、観客を大いに盛り上げた。中でも、ポップスステージ最後の演奏された「We Are The World」では、サイリウムライトを利用した演出で会場一体

なっており、リハーサルでは、様々なハプニングもあり、上手くいくか不安の方が大きかったが、会場の皆さんの温かい拍手に支えられ、無事成功。保護者の方々や先生方、OBや友人などたくさんの方々に支えられて、この日を迎えられる。

(松田歩美・牧園佑香・市来佳子・上原悠香)

第16回 感動のFINAL STEER

6月7日、本校の体育館でダンス部ファイナルが行われた。3年生にとっては、最後の発表会となり、多くの生徒たちや保護者、他校からの生徒も鑑賞した。大きな歓声が上がると、3年生全員によるオープニング。女子の部員が多い中、2年生男子2

人のダンスは、キレがよく、圧巻。そして、衣装はダンスに合わせてかわいい系からかっこいい系まで様々であった。第一部で1番盛り上がりつつあるは、紅と白に分かれて競う紅白対決。各チーム3つのグループがあり、交互に踊った。結果は、白が勝ったが、どちらもとてもよかった。

その後、1年生による司会で3年生一人一人のキャッチコピーやクイズがあり、休憩の合間も楽しませてもらった。第二部は、ダンス部員で考えた「蜘蛛の糸」を題材とした創作。今までのかわいらしいダン

生の声援に励まされるように全力で「プレッシャー」と意識込んでいた。観覧席に1、2年生が作った名前入りの団旗が掲げられた。最後まで全力でプレーし、79-37で勝利した。

(大重 舞)



(小城 史子・西田 葵)



(松田歩美・牧園佑香・市来佳子・上原悠香)



(藤田 理子)



(大重 舞)